

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	コミュニケーション心理学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	北村 紘美	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 認知、感情、学習における心の働きを理解し、その仕組みや代表的理論について概説できる。 2 動機付けやストレス、社会心理を理解し、適応に関わる内外からの心理的要素を考察できる。 3 心理発達について理解し、各段階における特徴の概要を述べることができる。			評価方法			
授業概要	基礎心理学の理論や事項について学習し、心理学的な考え方や視点を知る。国家試験に出題している項目については、詳細に学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハベーシック 心理学・臨床心理学 第2版	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション 心理学について						
第2週	『感覚と知覚』 人間がどのような心理的機能を通して外界を感じ、知覚し、認知しているかについて学ぶ。						
第3週	『情動と感情』 感情や情動とはどのようなものか。情動の機能と認知や情報処理への影響について学ぶ。						
第4週	『欲求と動機付け』 人間の行動における欲求と動機付けの働きや種類、仕組みについて学ぶ。						
第5週	『記憶①』 記憶の仕組みと働きについて学ぶ。						
第6週	『記憶②』 様々な記憶の種類とその特徴、記憶の障害などについて学ぶ。						
第7週	『学習①』 学習とは何か。学習における条件付けについて学ぶ。						
第8週	『学習②』 様々な学習の特徴と応用について学ぶ。						
第9週	『社会心理学』 私たちはどのように社会を認知するのか。自己と他者とは。個人と集団の心理的要素や影響について学ぶ。						
第10週	『ストレスとコーピング』 ストレスとはどのようなものなのか。ストレスの人への影響。ストレスの緩和と管理について学ぶ。						
第11週	『パーソナリティ①』 パーソナリティとは何か。代表的な人格理論や人格がどのように形成されるのかについて学ぶ。						
第12週	『パーソナリティ②』 様々なパーソナリティの捉え方。心理テストなど人格をどう測定するかについて学ぶ。						
第13週	『心の発達と心の危機①』 心はどのように発達するのか。発達段階や発達課題という考え方について学ぶ。						
第14週	『心の発達と心の危機②』 青年期・中年期・老年期における心理発達とその課題とはどのようなものなのかを学ぶ。						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を確認し、疑問点や分からない所があれば講義中に質問できるように準備しておくこと。 2 復習は、その授業の重要事項について次回講義までに振り返ること。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	社会福祉学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院・施設で患者疾患治療経験11年	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 日本の社会福祉の考え方や社会福祉の歴史について説明できる。 2. 対象者別の福祉や地域福祉などを図解や事例で学び説明できる。			評価方法			
授業概要	理学療法士や作業療法士などに必須の社会福祉を協働の視点で学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	コメディカルのための社会福祉概論	使用器材	適時プリントを配布				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	社会福祉とは (P2～)						
第2週	歴史的系譜 (P5～)						
第3週	日本の社会福祉の歩み (P13～)						
第4週	第二次世界大戦後の社会福祉制度 (P19～)						
第5週	福祉見直し論から社会福祉基礎構造改革へ (P21～)						
第6週	社会保障制度と社会福祉を展開する組織 (P29～)						
第7週	公的扶助 (P38～)						
第8週	こども家庭福祉 (P48～)						
第9週	児童虐待 (P61～)						
第10週	障害者福祉 (P70～)						
第11週	「障害者総合支援法」(P78～)						
第12週	高齢者福祉 (P89～)						
第13週	低所得者福祉 (P121～)						
第14週	まとめ						
第15週	テスト対策						
授業外 学習指示等	予習として教科書を読み、分からない専門用語をノートに書きだして調べておくこと。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	医学英語	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院・施設で患者疾患治療経験	担当者	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 医学英語に特有の語彙や表現に慣れる。 2. 臨床現場における医学英語を理解できる。 3. 国際的な学術雑誌やデータベースに掲載されている医学用語の内容を正確に、かつ効率的に理解できる力を身に付ける。			評価方法			
授業概要	臨床で用いる医学用語の基礎と実際を学ぶ。			期末試験 80% 単元試験 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハビリテーションの基礎英語	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	医学英語 総論						
第2週	運動と身体						
第3週	リハビリテーション						
第4週	人体の基礎知識						
第5週	関節可動域						
第6週	骨格系・骨・関節						
第7週	単元試験1						
第8週	上肢筋						
第9週	下肢筋						
第10週	神経						
第11週	疾患別リハビリテーション1 骨折・慢性腰痛						
第12週	疾患別リハビリテーション2 関節炎・スポーツ障害・脊髄損傷						
第13週	疾患別リハビリテーション3 パーキンソン病・脳卒中・慢性閉塞性肺疾患・嚥下障害						
第14週	単元試験2						
第15週	定期試験対策						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和8年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	情報・統計学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	臨床での管理・科内運営経験あり	担当者	大久保謙太郎	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①基本的な情報処理操作ができるようになる。 ②統計学の基礎知識を理解する。 ③各研究方法および統計法を理解し、使用することができる。			評価方法			
授業概要	統計を行うために必要な基本的なofficeソフトを理解・操作するために、パソコンを使用し、講義を行う。統計的志向を身につけるために演習を行う。			期末試験 60% 確認テスト 30% 授業中ディスカッション 10%			
教科書等	リハビリテーション統計学	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	情報統計学 総論 Word1						
第2週	情報統計学 Word2						
第3週	情報統計学 Excel1						
第4週	情報統計学 Excel2						
第5週	情報統計学 Power Point1						
第6週	情報統計学 Power Point2						
第7週	確認テスト(第1回～6回実施分)						
第8週	情報統計学 統計の基礎						
第9週	情報統計学 データの尺度・特性値・グラフについて①						
第10週	情報統計学 データの尺度・特性値・グラフについて② ～グループワーク～						
第11週	情報統計学 推定と検定、検定の概略①						
第12週	情報統計学 推定と検定、検定の概略② ～グループワーク～						
第13週	情報統計学 検定の実際						
第14週	確認テスト(第8回～13回実施分)						
第15週	ここまでのまとめ、本試験対策						
授業外学習指示等	授業前に配布する予習資料の予習を行いましょう。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	身体機能学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院施設勤務25年	担当者	高松 敬三	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	上肢・下肢の運動器における骨・筋の位置関係を把握し、的確に触診ができる			評価方法			
授業概要	機能解剖学に基づき、触診技術を学習する			中間試験 60% 期末試験 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢・下肢・体幹)	使用器材	マーカー・テーピングテープ				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション、肩甲骨・鎖骨・上腕骨の骨指標触診						
第2週	三角筋・大胸筋・棘上筋・棘下筋の触診						
第3週	小円筋・大円筋・肩甲下筋・広背筋の触診						
第4週	僧帽筋・菱形筋・肩甲挙筋・小胸筋の触診						
第5週	橈骨・尺骨・手根骨の触診						
第6週	上腕二頭筋・上腕筋・腕橈骨筋の触診						
第7週	上腕三頭筋・長掌筋・手指の筋肉の触診						
第8週	中間テスト						
第9週	上・下前腸骨棘、上後腸骨棘、坐骨結節、大転子、大腿骨頭の触診						
第10週	腸腰筋・縫工筋・大腿筋膜張筋・中臀筋の触診						
第11週	小臀筋・大臀筋・梨状筋の触診						
第12週	膝蓋骨・脛骨・腓骨・大腿四頭筋の触診						
第13週	半腱・半膜様筋・大腿二頭筋・薄筋の触診						
第14週	前脛骨筋・腓腹筋・ヒラメ筋・後脛骨筋の触診						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和8年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	解剖学(骨・関節系)	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 骨や関節が人体のどこにあるか答えることができる。 2. 骨や関節の構造について説明することができる。 3. 骨や関節の部位を体表より触診することができる。			評価方法			
授業概要	解剖学を学ぶ意義・目的を考え、人体構造を把握した上で、全身の骨の名称、構造、機能を骨模型・体表解剖などの手法を用いて理解する。毎授業に小テスト用いて、単元試験と期末試験の総合評価を行う。			期末試験 50% 単元試験 40% 小テスト 10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT・OTビジュアルテキスト解剖学	使用器材	配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週 (2コマ)	解剖学総論 身体の区分(体表での区分、体内の腔所、基本肢位、安静立位姿勢における重心線)						
第2週 (2コマ)	面や方向を示す用語(人体の主要平面、人体の方向を示す用語、身体の基本運動方向)						
第3週 (2コマ)	骨の構造(骨の分類、骨の構造、骨単位、骨の再構築)						
第4週 (2コマ)	関節の形態と可動域(連結の分類、関節の構造、関節の形状と動き、関節とてこなど)						
第5週 (2コマ)	単元試験1						
第6週 (2コマ)	上肢の骨(肩甲骨、鎖骨、上腕骨、尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指骨)						
第7週 (2コマ)	上肢の関節(胸鎖関節、肩鎖関節、肩関節、肘関節、上橈尺関節、下橈尺関節、前腕骨間膜、橈骨手根関節、手根間関節、手根中手関節、中手指節関節、指節間関節)						
第8週 (2コマ)	単元試験2						
第9週 (2コマ)	下肢の骨(寛骨、大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨、足根骨、中足骨、趾骨)						
第10週 (2コマ)	下肢の関節(股関節、膝関節、脛腓関節、距腿関節、足の関節、足趾の関節)						
第11週 (2コマ)	単元試験3						
第12週 (2コマ)	頭部と胸郭の骨(頭蓋の骨、脳頭蓋を構成する骨、顔面頭蓋を構成する骨、頭蓋の前面・側面・上面・後面・下面の構造物、内頭蓋底の構造物)						
第13週 (2コマ)	椎骨の骨(椎骨の基本形、各椎骨の形態と特徴)						
第14週 (2コマ)	頭頸部と体幹の関節(頭部の関節、脊柱の関節)						
第15週 (2コマ)	単元試験4						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	解剖学(筋系)	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院・施設にて臨床経験あり	担当者	江島 智子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 骨格筋の構造と種類および機能が理解できる。 2. 全身の骨格筋の概念が理解できる。 3. 上下肢・体幹の筋の位置と名称を言うことができる。 4. 上下肢の主要な筋の起始・停止・作用・神経支配を言うことができる。			評価方法			
授業概要	人体構造を把握し、筋の構造と機能、筋の分類と形状、筋名、起始・停止、作用、神経支配、位置関係を学ぶ。			期末試験 70% 確認テスト 30% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	1)PT・OTビジュアルテキスト解剖学 第2版 2)肉単	使用器材	教科書・配布資料・等身大骨格模型・筋模型・パソコン・プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第1章 4 筋の構造 ①筋の種類 ②骨格筋の各部の名称 p31～						
第2週	③収縮の種類 ④骨格筋の形状による分類 p33～						
第3週	復習・確認テスト① / 第2章 1 上肢の骨 ①肩甲骨 ③上腕骨 p48～ / 運動方向 p41～						
第4週	第2章 3 上肢の筋 ①胸部の筋 ②背部の筋 の位置関係を理解する p68～						
第5週	③肩甲骨周囲の筋 p71～						
第6週	④上腕の筋 ⑤前腕の筋 p74～						
第7週	⑥手の筋 p84～						
第8週	上肢筋の復習・確認テスト②						
第9週	第3章 1 下肢の骨 ①寛骨 ②大腿骨 と動きの確認 p105～						
第10週	3 下肢の筋 ①大腿前面の筋 ②大腿内側の筋 p134～						
第11週	③殿部の筋 ④大腿後面の筋 p139～						
第12週	⑤下腿前面の筋 ⑥下腿外側の筋 ⑦下腿後面の筋 p144～						
第13週	下肢筋の復習・確認テスト③ / ⑧足の筋 p150～						
第14週	第4章 5 頭頸部の筋 p208～ / 第4章 7 体幹の筋 p219～						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	授業中に提示される学習課題をノートにまとめる。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	生理学 I	授業時期	前期	授業時数	60
実務経験	病院・施設にて臨床経験あり	担当者	江島 智子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 各臓器の生理学的知識を身につける。 2. 各器官の解剖・生理の正常な状態を理解する。 3. 正常を理解したうえで、今後の疾患について考えることができるようになる。			評価方法			
授業概要	ヒトの各器官の生理機能について理解を深める。また、各器官の機能を理解したうえで病気についてもイメージができるようになる。			期末試験 70% 確認テスト 30% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PTOT 生理学 第6版	使用器材	教科書・パソコン・プロジェクター・配布物				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週 (2コマ)	第1章 生命現象と人体 細胞、組織、器官、器官系の関係を説明できる 生命の維持メカニズムの概略を説明できる/体内に含まれる水とその役割を説明できる						
第2週 (2コマ)	体温の調節と発熱のメカニズムを説明できる 体内環境の調整メカニズムを説明できる						
第3週 (2コマ)	第2章 細胞の構造と機能 細胞膜の機能を説明できる 細胞小器官の名前をあげ、その役割を説明できる						
第4週 (2コマ)	静止膜電位、活動電位の発生のメカニズムを説明できる ①確認テスト						
第5週 (2コマ)	第3章 神経の興奮伝導と末梢神経 神経細胞の構造を説明できる 神経における興奮伝導のメカニズムとその特徴を説明できる						
第6週 (2コマ)	末梢神経の分類法を複数あげて説明できる 自律神経を分類し、それぞれの機能を説明できる シナプスにおける興奮の伝達メカニズムを説明し、重要な神経伝達物質の名前と機能部位を説明できる						
第7週 (2コマ)	第4章 中枢神経系 中枢神経系の各部位(脊髄～大脳)の役割・機能を説明できる 脊髄反射について説明できる						
第8週 (2コマ)	大脳の高次機能(学習、記憶、随意運動、脳波、覚醒と睡眠)について説明できる 脳脊髄液の役割、血液脳関門について概説できる ②確認テスト						
第9週 (2コマ)	第5章 筋と骨 骨格筋の構造と機能との関係を説明できる 骨格筋の収縮メカニズムを説明できる/筋紡錘・Golgi腱器官の機能を説明できる						
第10週 (2コマ)	心筋・平滑筋の特徴を骨格筋と比較して説明できる 骨の形成と吸収、成長と加齢に伴う変化を説明できる						
第11週 (2コマ)	第6章 感覚 適刺激、閾値、Weberの法則について説明できる 体性感覚を分類して列挙し、それぞれの特徴を説明できる/内臓感覚と関連痛について説明できる						
第12週 (2コマ)	光の受容、視覚情報の伝導経路、遠近調節と明暗順応について説明できる その他の特殊感覚をあげ、情報の受容メカニズムと伝導路について説明できる						
第13週 (2コマ)	第7章 血液 血液の組成を説明できる 赤血球の役割、赤血球に関する3つの指標、新生と破壊を説明できる						
第14週 (2コマ)	貧血を分類し、それぞれの原因と特徴を説明できる 白血球を分類し、それぞれの役割を説明できる 血液の凝固と線溶を説明できる						
第15週 (2コマ)	血漿成分をあげ、それぞれの機能、調節メカニズムを説明できる 血液型について説明できる ③確認テスト						
授業外 学習指示等	復習をしっかりと行い、説明ができるようにしましょう。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	運動学 I	授業時期	前期	授業時数	60
実務経験	回復期病院で5年以上の実務経験あり	担当者	桑原 佑典	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 骨格筋の構造と種類および機能が理解できる。 2. 全身の骨格筋の概観が理解できる。 3. 上肢・体幹の筋を模写・縁取りし名称がいえる。 4. 上肢の主要な筋の起始・停止・作用・神経支配が言える。			評価方法 期末試験 100%			
授業概要	本授業では、人体運動の理解に必要な運動学の基礎理論を学習する。骨格、関節、筋の構造および機能を基盤として、関節運動、姿勢制御、歩行などの身体運動を力学的および機能解剖学的観点から理解する。さらに、理学療法における評価・治療へ応用するための運動分析の基礎能力を養うことを目的とする。			(100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	基礎運動学、解剖学、生理学	使用器材	等身大骨格模型、筋模型				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週 (2コマ)	運動学総論、身体運動の面と軸①②						
第2週 (2コマ)	骨の分類と構成、骨の連結の分類						
第3週 (2コマ)	滑膜関節の形状と分類、骨・関節まとめ						
第4週 (2コマ)	筋の構造と分類①②						
第5週 (2コマ)	筋収縮について①②						
第6週 (2コマ)	神経系の構造と機能①②						
第7週 (2コマ)	筋と神経①②						
第8週 (2コマ)	筋と神経③④						
第9週 (2コマ)	上肢帯と肩関節の構造と運動①②						
第10週 (2コマ)	上肢帯と肩関節の構造と運動③④						
第11週 (2コマ)	肘関節と前腕の構造と運動①②						
第12週 (2コマ)	肘関節と前腕の構造と運動③、手関節と手の構造と運動①						
第13週 (2コマ)	手関節と手の構造と運動②③						
第14週 (2コマ)	脊柱・体幹構造と運動①②						
第15週 (2コマ)	まとめ						
授業外 学習指示等	人の運動機能を理解する重要な科目です。暗記するだけでなく、自分自身の体と照らし合わせながら、繰り返し学習すること。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	リハビリテーション概論 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. リハビリテーションの定義を正しく理解する。 2. リハビリテーション医療の対象や現状、各専門職の役割を知る。 3. 国際障害分類、国際生活機能分類について理解する。			評価方法			
授業概要	リハビリテーション理念や目的を理解した上で、リハビリテーション医療の流れ、リハビリテーションの組織を学ぶ。 さらに、他職種連携について学習する。			期末試験 70% 単元試験 20% 課題提出 10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	医学生・コメディカルのための 手引書 リハビリテーション概論	使用器材	配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション						
第2週	リハビリテーションの概念・語源						
第3週	リハビリテーションの理念・定義						
第4週	健康と障害の概念と分類(国際障害分類)						
第5週	健康と障害の概念と分類(国際生活機能分類)						
第6週	単元試験1						
第7週	リハビリテーション診療						
第8週	障害の心理的・社会的視点						
第9週	リハビリテーションと心理療法						
第10週	患者・家族心理教育						
第11週	ヒトの発達と評価ーとくに小児ー						
第12週	リハビリテーション過程						
第13週	リハビリテーションの諸段階						
第14週	単元試験2						
第15週	定期試験対策						
授業外 学習指示等	復習は、授業で実施した内容の重点事項を中心に振り返ること。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	理学療法概論 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	臨床経験15年	担当者	大久保謙太郎	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①理学療法の定義を正しく理解する ②理学療法の業務の流れや職能(責任)について理解する ③研究手法を理解し、理学療法士の役割を理解する			評価方法			
授業概要	理学療法の定義を理解した上で、理学療法の流れや臨床での役割を理解する。			期末試験60% 小テスト40%			
教科書等	理学療法概論テキスト 改定第3版	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	理学療法って何だろう A定義 B各種技術 C歴史 Dリハビリテーション						
第2週	理学療法って何だろう E障害(ICIDHとICF)及び、理学療法士に関連する法律を学ぼう						
第3週	理学療法士の役割						
第4週	理学療法士に求められる臨床思考って何だろう						
第5週	小テスト① 補足						
第6週	理学療法の実際ってどんな流れなの						
第7週	理学療法士ってどんなところで活躍しているの						
第8週	理学療法士の職能って何だろう						
第9週	理学療法(士)教育とは						
第10週	小テスト② 補足						
第11週	フィールドワークをやってみよう						
第12週	理学療法研究ってどうすればいいの						
第13週	理学療法士に必要な管理や運営上、知っておくべきことって何だろう						
第14週	小テスト③ 補足						
第15週	本試験対策						
授業外 学習指示等	授業中に提示される学習課題をノートにまとめる。						